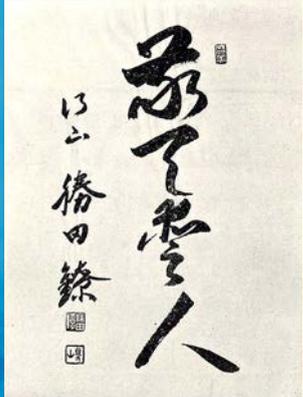
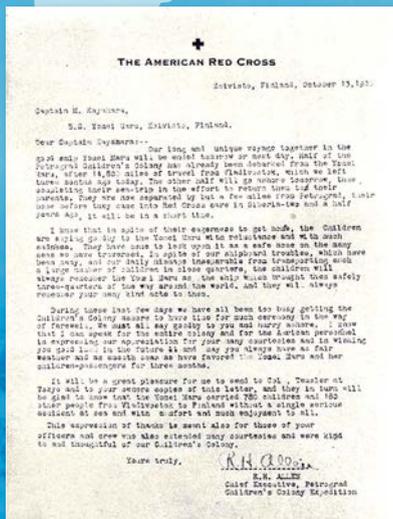




トイスラー博士記念館(東京)



勝田「敬天愛人」一行書



アレンから船長への礼状

百年前、熾烈な世界大戦のさ中に彼らがやり遂げたこと。それをなぜ、平和な今日ではできないのか？ 私たちは、世界に問い続けるのです。



オルガ・モルキナ 「陽明丸に救われ、帰郷したウラル児童難民子孫の会」会長



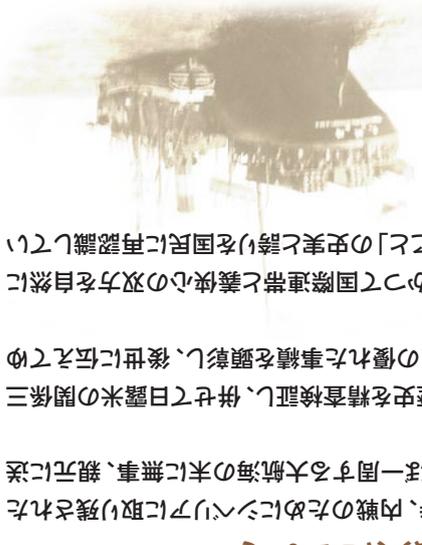
北室南苑 NPO法人 人道の船陽明丸顕彰会理事長



アデーレ・リンデンマイヤー 米国ヴィラバ大学教授(歴史学)

1 正会員	年会費 (個人)	二千元
2 賛助会員	年会費 (法人)	一万円

新会員募集



20世紀初頭、ロシア革命後の混乱時、内戦のためにシベリアに取り残された約800人の子供難民を乗せ、地球をほぼ一周する大航海の末に無事、親元に送り届けた日本船、陽明丸。

当NPO法人について

私どもNPO法人は、この知られざる歴史を精査検証し、併せて日露米の関係三か国市民による国際交流をベースに、この優れた実績を顕彰し、後世に伝えてゆぐ事を目的として設立されました。

私どもはこの陽明丸実績を通して、「かつて国際連帯と義侠心の双方を自然に発露した、素晴らしい祖先を持つていたこと」の史実と誇りを国民に再認識していただくことに大きな意味があると考えます。

この壮大な事業の推進のために、ご賛同を頂ける心ある市民の皆様には是非、会員になっていただきたいのです。

やがて樹に実る豊かな果実(国際親善、文化交流)を共に収穫致したく、何とぞ皆様のお力添えを賜りまして、心よりお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 人道の船 陽明丸顕彰会 (アロク) <http://www1.ocn.ne.jp/~nanen/> <http://blog.livedoor.jp/kaiserhund/>

電話・FAX 0761-55-1267 Email: nanen@aqua.ocn.ne.jp

〒929-0107 石川県能美市福岡町10番地

特定非営利活動法人 人道の船 陽明丸顕彰会



Добро пожаловать на борт "Йомей-мару"!

ようこそ陽明丸へ。



私がかやハラ、この船の船長だ。
今から君たちの故郷に向かって、二つの大洋を越える
長い船旅が始まる。
でも、航海中は、私はずっと君たちと一緒に仲間だからね。
快適な船旅になるよう、協力し合おうね。

Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

陽明丸の航跡が示す、国境を超えた愛と義侠心



船長が子供の一人に書いて渡した直筆メモ



発見された船長手記





“人道の箱舟”陽明丸とは 大正時代の秘められた、日米連携の国際人道支援

百年ほど前、革命や内戦で混迷の極みにあったロシア。酷い食料難のため、首都ペトログラードを離れ、遠くウラル地方に疎開した約800名の子供たちがいました。しかし、疎開先でも激しい内戦に巻き込まれ、やがて訪れた酷寒の地で孤立、凍餓死の危機に直面したのです。彼らを危機一髪で救い出し、手厚い保護を与えたのが、ルドルフ・トイスラー博士が率いた米国赤十字シベリア救護隊でした。子供たちは比較的安全な極東ウラジオストクまで移されましたが、やがて同市にも戦鬪が及びそうになりました。

これを深く懸念したのがシベリア救護隊隊長、ライリー・アレン。彼は子供たちを連れて船で洋上に逃れ、地球をほぼ一周して親元に返そうと決意したのです。ただ、あまりにも無茶な計画と見なされ、米国政府自体も含め、方々から背を向けられていた中、やっと応じてくれたのが日本船陽明丸。神戸の船会社社長、勝田銀次郎氏の貨物船でした。そして、帰還捕虜も加えた総勢約一千名の乗員・乗客は、航海中は国籍の違いを超えて一致協力しました。二つの大洋を越え、機雷の漂う危険な北海も無事通過、ついに隣国フィンランドに到達したのです。大方の子供が無事に親元に戻ることができましたが、疎開の日から二年数ヶ月の歳月が流れていました。

さて、この快挙をなし遂げた陽明丸ですが、その功績はその後一世間、歴史の闇に埋もれていました。ところが2009年、 Санктペテルブルク市で個展を開催した北室南苑・当NPO理事長が、その折に訪れたオルガ・モルキナ女史から船長の探索を懇願されたのです。そして二年間の努力の末、ついにこの船長が「茅原基治」氏であることを突き止めました。また船長自身の貴重な手記も併せて発見されました。

2011年にはモルキナ女史が初来日、笠岡市で船長の墓参が行われました。また、2013年には、この年に設立された当NPOがモルキナ女史を招聘、顕彰式典等の記念イベントを実施いたしました。2014年10月には、米国の研究者、アデーレ・リンデンマイヤー教授も新たに加わり、日露米関係者による第二回顕彰事業の開催が予定されています。



零下数十度、厳冬のロシア。

凄惨な内戦で親元から遠く離れてさ迷い、凍餓死寸前であった児童800人。彼らを救出し、地球一周の大航海の果てに、日米連携で故郷に戻した四人の男たち。一世間の闇に埋もれていた、無私の献身と義侠心の史実が今やっと明らかに。



ルドルフ・トイスラー博士
東京の聖路加国際病院創設者・初代院長
米国赤十字シベリア救護隊隊長
(アレンの前任者)



茅原基治 (かやはらもとじ)
岡山県笠岡市の旧家出身
陽明丸船長



ライリー・アレン
ハワイ出身のジャーナリスト
米国赤十字シベリア救護隊隊長



勝田銀次郎 (かつだぎんじろう)
勝田汽船社長、元神戸市長
陽明丸船主



血みどろのロシア内戦の惨禍を
やっと逃れた子供たち
陽明丸はつかの間の平和な楽園、
まさにノアの箱舟だったのです。



実施してきた、さまざまな顕彰活動と日露交流



モルキナ女史から船長の探索を懇願される
(2009年 Санктペテルブルク市)

当NPO法人主催
第1回顕彰式典
(2013年石川県能美市)



日本記者クラブにて
合同記者会見
(2013年東京都千代田区)



モルキナ女史を案内し、発見された
船長の墓に墓参
(2011年岡山県笠岡市)